

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 25 日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21520521

研究課題名（和文）大学の特色を活かした留学生のための包括的キャリア教育支援システムの構築

研究課題名（英文）Construction of university-base comprehensive career support for international students.

研究代表者

末松 和子（SUEMATSU KAZUKO）

東北大学・大学院経済学研究科・准教授

研究者番号：20374887

研究成果の概要（和文）：留学生の就職活動を取り巻く現状と課題を整理し、留学生教育を担う大学が、教育・支援の一環として行うべき就職支援を包括的な視点で考察し、留学生就職支援プログラムの充実化もしくは新規プログラムの実施時に、指標・チェックリストとして活用できる評価モデル開発した。

研究成果の概要（英文）：

The current situations and challenges of career support for international students and challenges were reviewed. Based on the premises that international students struggle with those challenges because of their linguistic and cultural disadvantage, I investigated the necessity of providing extensive career support specifically designed for international students and suggested “principles” that the universities should consider incorporating when developing a custom-made career support program for international students.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
平成 21 年度	600,000	180,000	780,000
平成 22 年度	200,000	60,000	260,000
平成 23 年度	100,000	30,000	130,000
年度			
年度			
総計	900,000	270,000	1,170,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・日本語教育

キーワード：キャリア教育、留学生支援、就職支援、日本事情

## 1. 研究開始当初の背景

高度人材外国人、とりわけその最も有力候補となる外国人留学生を対象とした就職支援への関心が高まっている。平成15年12月

の中央教育審議会の答申で、留学生担当部門と就職部門の連携強化、就職活動に関する指標・情報提供・インターンシップの充実化、など、新たな留学生支援政策の展開が討議さ

れ、総務省の外国人雇用サービスセンターと大学等との連携強化（平成17年1月）、文部科学省協力のもと独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）が中心となり平成17年度より全国各地で行われている就職指導担当者の研修会、経産省主導のアジア高度人材ネットワーク構築を狙ったアジア・ゲートウェイ構想（平成19年）が構築されるなど、日本を始めとするアジアの経済・技術発展に中枢的な存在として貢献できる高度人材を日本の高等教育機関で育成し、社会へ送り出すためのシステム作りが進みつつある。

大学卒業後、日本での就職を希望する学生も急増している。JASSOが平成17年度に行った私費外国人留学生生活実態調査では、調査対象者の56.3%が卒業後、日本で就職したいと回答している。これら留学生の新しいニーズに対し、特に留学生受入数の多い主要大学や留学生獲得を施策とする大学を中心に、就職支援が留学生支援事業に取り込まれるようになってきている。

しかし、産・官主導で急速に発展しつつある留学生就職支援事業や新たな留学生のニーズへの対応に戸惑う大学も多い。特に、これまであまり必要とされなかった留学生支援部門と就職支援部門などの学内の連携、人材派遣会社などの学外機関との連携においては、経験不足や体制の不備から支援施策が後手に回りがちになっていることは否めない。また、日本語教育においても、これまでの生活への適応や学業を遂行させるために必要な語学スキルの習得を重視したカリキュラムに、就職活動に特化した語学・日本事情など大学卒業後に社会人として機能するために必要な日本語教育を取り入れる際、講師の情報・経験不足や融通性の低い大学のシステムが障害となることも多い。結局、人材育成専門企業に日本語教育を含む就職活

動支援事業を委託し、留学生施策の重点課題となりつつある就職支援の充実化をアウトソーシングにて図らざるを得ない大学もある。日本独特の就職活動を新しい文化への適応ととらえ、職業教育だけではなく、留学生の多次元・多面的なニーズに対応した包括的なキャリア教育の展開が求められている。

## 2. 研究の目的

留学生のキャリア支援において先進的な取り組みを行う国内外主要大学の就職支援プログラムを、①知識・スキルなどの職業教育、②語学教育、③キャリア教育、の3つの視点で分析する。同時に、キャリア発達、異文化適応、異文化間コミュニケーション、日本語教授法等の文献を基に考察を深め、各機関がすでに実施している、もしくは立案中の留学生就職支援プログラムを、教育的要素がバランス良く整った包括的なプログラムにするための検討に役立てられるプログラム評価モデルの作成を行う。そのモデルをベースとし、高等教育機関が各々の特色、制度整備状況、留学生のニーズに合わせ留学生に特化したキャリア教育・就職支援を行えるよう、モデル・プランとなるプログラムを開発、提示する。同時に、キャリア教育・就職支援を展開するための教材開発も試みる。本研究を通して、急速に変化する労働市場、社会ニーズ、国策に、付け焼刃的な民間主導の就職支援事業で応じる昨今の留学生施策を見直し、留学生教育を念頭に置いた就職支援充実化のためのシステム作りを図る。

## 3. 研究の方法

国内外の留学生に特化した先進的もしくは特色のある就職支援プログラムを、実施機関の視察、関係者へのヒアリング、実態調査などをもとに選抜し、①職業教育、②語学教育、

③キャリア教育の3つの要素につきそれぞれ考察する。同時に行う文献レビューにて各要素の必要性の裏付け、また、新たな要素の検討を試みる。次に、それらの検討結果を基に、留学生就職支援プログラムの充実化もしくは新規プログラムの実施時に、指標・チェックリストとして活用できる評価モデル開発を行う。さらに、評価モデルを基盤とし、就職支援モデル・プランを提示する。上記の要素がバランス良く整った包括的なプログラムのほかに、職業教育重視型、語学教育重視型、キャリア教育重視型プログラムなど、各高等教育機関がそれぞれの特色、ニーズ、準備態勢、現行の就職支援に合わせ選択できるようなプログラム開発を目指す。プログラムに沿った教材開発も行い、就職支援のノウハウや日本語教育の教材の不足している教育機関においても留学生に特化した就職支援が実施できるよう幅広い利用者を意識したシステム作りを行う。

#### 4. 研究成果

日本での就職活動に苦戦する留学生が直面する課題を整理し、留学生に特化した就職支援の必要性と、その支援に大学が自主的に関わることの重要性を確認し、支援体制の整備・構築にあたり、大学が留意・検討すべき基本事項を提案した。「1.日本語学教育」就職および就労活動に必要な知識・スキルを教授する「2.職業教育」、「3.キャリア教育・カウンセリング」「4.支援ネットワーク形成」、「5.産学官連携」の視点をバランスよく取り入れた、留学生に特化した包括的なキャリア教育・就職支援プログラムをモデル提示することが出来た。また、高等教育機関がそれぞれの特色や学生のニーズを考慮した就職支援を実施する際、参考となる「留学生の就職支援プログラム評価指標」を作成し

た。当初の研究計画で予定していた上記1～3の視点に加え、新たに「支援ネットワーク形成」と「産学官連携」を指標に取り入れることが出来たのは、国内外で特色ある就職支援プログラムを展開する高等教育機関へのヒアリング調査で得られた知見をもとに留学生就職支援プログラムのあり方を再分析する機会が得られたためである。留学生、つまりグローバル人材の育成を、人的・物的資源の限られた大学のみで実施するのは、近年の社会情勢を考慮すると、もはや現実的ではなく、大学、産業界、政策決定者、地方自治体、地域コミュニティーがそれぞれの強みを生かしながらも連携を図り協働する、「ネットワーク形成型の就職支援」を展開すべきであることを本研究にて明示した。文献・聞き取り調査に基づいた理論構築を、モデル提示・評価指標の作成につなげたことで理論から実践へ、つまり研究の応用を実現することが出来た。大学における留学生教育・支援施策というフレームワークでとらえ直し、大学の役割を再考するとともに、今後のさらなる発展に大学がどのように関わるべきか、その方向性を示唆することも出来た。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計3件)

1. Kazuko Suematsu, “Where is Japan Heading After the Earthquake?”, International Higher Education, 査読無、2011年、11-12
2. 佐藤勢紀子、末松和子、曾根原理(省略5)、共通教育課程における「国際共修ゼミ」の開設、留学生クラスとの合同による多文化理解教育の試み、東北大学高等

教育開発推進センター、査読有、6巻、143-156

3. 末松和子、留学生に特化した就職支援—大学が果たすべき役割と包括的支援の基本事項—、留学生教育、査読有、15号、2010年、15-26

[学会発表] (計9件)

1. Kazuko Suematsu, In the Aftermath of a Disaster: Managing Relationships and Student Mobility Following a Major Natural Disaster, Australian International Education Conference, 2011年10月13日、オーストラリア・阿德レード
2. 末松和子、日本における外国人留学生の就職状況・就活必勝法、日中大学フェア&フォーラム、2011年10月10日、東京
3. Kazuko Suematsu, Response of Japan and Tohoku University to March 11, Special Seminar at University of California, Riverside, 2011年8月15日、アメリカ・カリフォルニア
4. Kazuko Suematsu, Japan's Response to the March 11 Earthquake, Tsunami, and Fukushima Accident, NAFSA Associate for International Educator, 2011年6月1日、カナダ・バンクーバー
5. Kazuko Suematsu, Strategic Business Communication in Japanese Companies and Job-Hunting in Japan, Special Seminar at National Formosa University, 2011年4月27日、台湾・台南市
6. 末松和子、東北大学大学院経済学研究科・経済学部国際交流の発展、敬和会東京支部、2011年2月4日、東北大学東京分室

7. Kazuko Suematsu, Career Opportunities and Japan for International Students and Scholars, European Association of International Education, 2010年9月17日、フランス・ナント市

8. 末松和子、留学生就職支援の現状と課題—東北大学の取り組みを通して—、第5回日中人材交流ワークショップ 特別企画“留学生の就職問題を考える”、2010年3月24日、東京

9. 末松和子、学内外の人的資源を活用した包括的な留学生就職支援、産学連携フォーラム 地域に根差した留学生の採用と活用、2010年3月19日、名古屋大学

[図書] (計0件)

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況 (計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

[その他]  
ホームページ等

6. 研究組織  
(1) 研究代表者  
末松 和子 (SUEMATSU KAZUKO)  
東北大学・大学院経済学研究科・准教授  
研究者番号：20374887

(2)研究分担者 ( )

研究者番号：

(3)連携研究者 ( )

研究者番号：